

2020年度
ガールズ相談
報告書



発行・お問合せ：札幌市男女共同参画センター
(指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)

〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ公共4施設内
Tel: 011-728-1255 Fax: 011-728-1229
Mail: jigyou@danjyo.sl-plaza.jp

札幌市男女共同参画センター
(指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)

札幌市男女共同参画センター 「ガールズ相談」の想い

ガールズ相談を始めてから5年が経ちました。友達でもない、親でも先生でもない、会ったことのない相談員に勇気を出してメッセージを送ってくれた子たちにたくさん会えることができました。

その中には、ジェンダーによって考え方や行動が制限され、自分らしく生きることができていないガールズが多くいます。そんな社会で生きるガールズは、ありのままの自分を表現することに抵抗を感じ、周りに合わせて作り上げた「普通」にならなければいけないと悩んでいます。本当のことを隠して、自分の気持ちに蓋をして生活している子たちは、課題や困難に直面したときに誰にも話すことができず、どうしたらいいのかわからない状況が続き、辛くて不安な気持ちを抱えたまま過ごしています。そんなときに、ありのままの自分を自分が認めてあげられるように、人に認めてもらえるように支えてくれる人は、この子たちの周りにどれだけいるのでしょうか。

「自分は自分のままでいいんだ」「自分が悩んでいることはおかしいことではなかったんだ」と思えるようになるまでは、周りの環境と人がとても大切な役割を果たすと考えます。大勢いるうちのたった一人かもしれないあなたは、ガールズにとって、自分を認めてくれた、受け止めてくれた人になるかもしれません。目の前にいるガールズが、ありのままの自分で進んでいきけるきっかけになるかもしれません。

ガールズは不安や悩みを誰かに相談する力を持っています。どうにかしたい、乗り越えたいという想いも持っています。これからも私たちは、ガールズ自身が持つ力を上手く発揮できるように引き出すことやジェンダー観の気づきを与えられるように、一人ひとりの想いに向き合っていきます。

また、制度や支援の狭間で取りこぼされているガールズの声拾い上げ、悩みが深刻化する前の受け皿として、「ガールズ相談」を機能させていく必要があると考えます。今まで誰にも悩みを打ち明けることができなかったガールズにとって、誰かに相談する最初の一步になれば嬉しいです。

SNS相談だからこそつながれるガールズはたくさんいます。しかし、SNS相談だけでは限界があるのも事実です。画面の中だけではなく、顔を見ながら今後について一緒に考えていけるようなつながり自体が重要なケースや、さまざまな社会資源や支援制度につなげていく必要があるケースも増えているように感じます。

どんな状況で生まれ、どんな環境で育っても、自分の人生を自分で選択していくことができるように。自分のことを大切にできるように。どこに住んでいても、どんな時でも、ガールズの声にしっかり耳をかたむけてくれる人が全国に増えることを願っています。

「ガールズ相談」が大切にしていること

1. ガールズが「主体的に生きる力」を身につける。

相談を通して「誰かに悩みを相談してもいいんだ」「相談することは恥ずかしいことではないんだ」とガールズが気づき、「自分を大切に思う気持ち」を持つことで、課題や困難に直面した際に周囲とつながり、「主体的に生きる力」を身につけるサポートをします。

2. ガールズを取り巻く問題を明らかにする。

ガールズが抱える問題の多くは、「ガールズ個人の問題」ではなく「社会の問題」です。「ガールズ相談」の実施報告や相談から明らかになった問題をテーマにしたワークショップなどを行うことで、札幌のガールズがどんな悩みを抱えているのかを学校や地域社会、ガールズ自身にフィードバックをし、問題の解決につなげていきます。

(詳細は9～11ページをご覧ください。)



実施団体

札幌市男女共同参画センター

(指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)

性別によって仕事や生活が制限されたり、家庭や職場などでの役割が決められることなく、個人の希望が尊重され、「自分らしい」生き方が選択できる社会を目指して、講演会や学習会、相談窓口の開設、情報誌の発行などさまざまな事業を行っています。

札幌市男女参画センターで 扱っているテーマ

女性活躍推進、ワークライフバランス、働き方改革、ガールズのエンパワーメント、SDGs、ジェンダー平等、ダイバーシティ、SOGI、女性に対する暴力 など



男女共同参画情報誌「りぶる さっぽろ」

相談概要

時期	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
対象	中学生・高校生・大学生、またはこの年齢に相当する女性				
実施期間	【2016年】 8月25日(木)～9月7日(水) 月～木 16:00～19:00 金 19:00～22:00 土・日 13:00～16:00	【2017年 夏期】 8月25日(金)～9月7日(木) 月・火・木 18:00～21:00 水・金 19:00～22:00 土・日 16:00～19:00 【2018年 冬期】 1月11日(木)～1月24日(水) 19:00～22:00	【2018年 夏期】 8月20日(月)～9月2日(日) 19:00～22:00 【2019年 冬期】 1月10日(木)～1月23日(水) 19:00～22:00	【2019年 夏期】 8月19日(月)～9月1日(日) 19:00～22:00 【2020年 冬期】 1月13日(月)～1月26日(日) 18:30～21:30	【2020年 夏期・秋期】 8月16日(日)～8月25日(火) 10月9日(金)～10月13日(火) 18:30～21:30 【2021年 冬期・春期】 1月8日(金)～1月17日(日) 3月26日(金)～3月30日(火) 18:30～21:30
相談方法	LINE、電話、面談	LINE		LINE・Curetimeシステム <small>2019年度冬期は「性暴力に関するSNS相談Curetime」で使用していたシステムも使用しています。</small>	LINE <small>新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2020年3月に「ガールズ相談+（プラス）」2020年4月～6月に「特設相談窓口「女性のためのLINE相談」」を実施しました。</small>
相談員体制	臨床心理士やキャリアカウンセラー、スクール (臨床心理士を学んでいる大学院生、セクシュアル 1日2名	カウンセラーなどとして活動されている女性相談員 ・マイノリティの支援をされているNPO団体の方) 1日3名			1日3名 札幌市男女共同参画センター職員(秋期・春期のみ)
広報の取り組み	カード、ポスター、チラシ、うちわ 	カード、ポスター 			
	札幌市内・近郊の中学校・高等学校・大学、 中学校・高等学校については、女子生徒1人に1枚	児童会館、若者活動センターなどに配布。 カードが渡るように、各学校にご協力いただきました。		2020年度は石狩市内の中学校・高等学校・大学、札幌市内の保健センター、 心理臨床センターにも配布。	

相談結果

●相談件数

2016年度

589件

【内訳】

- ・相談対応完了件数 98件
- ・相談中に返信が途絶えた 119件
- ・時間が足りなくて対応できなかった 372件

※2016年度はLINE以外に電話と面談でも相談を受け付けた。電話は24件あり、面談は0件だった。

2017年度

1153件

【内訳】

- ・相談対応完了件数 359件
- ・相談中に返信が途絶えた 125件
- ・時間が足りなくて対応できなかった 669件

2018年度

1709件

【内訳】

- ・相談対応完了件数 360件
- ・相談中に返信が途絶えた 149件
- ・時間が足りなくて対応できなかった 1200件

2019年度

1147件

【内訳】

- ・相談対応完了件数 282件
- ・相談中に返信が途絶えた 179件
- ・時間が足りなくて対応できなかった 686件

2020年度

615件

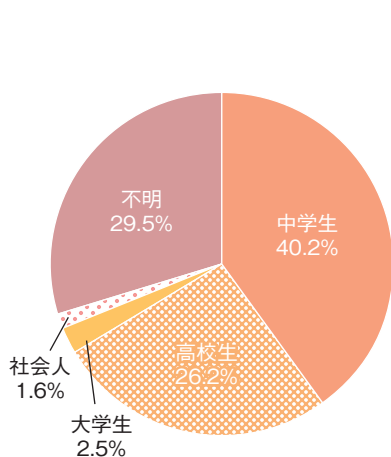
【内訳】

- ・相談対応完了件数 304件
- ・相談中に返信が途絶えた 35件
- ・時間が足りなくて対応できなかった 276件

※以下、2020年度のデータは春期を除く3期分のデータ

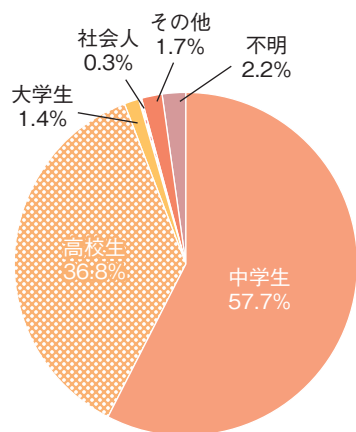
●相談者

2016年度

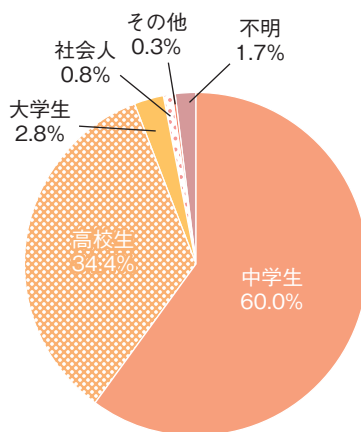


※2016年度は電話の相談者も含む。

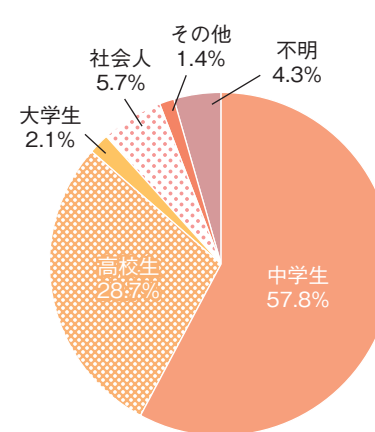
2017年度



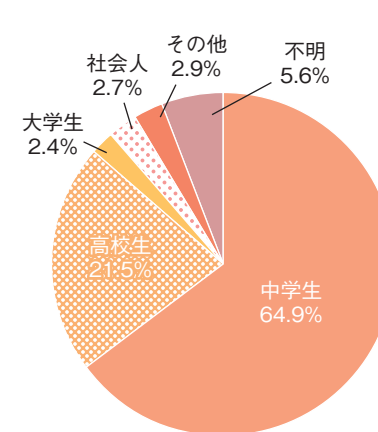
2018年度



2019年度



2020年度

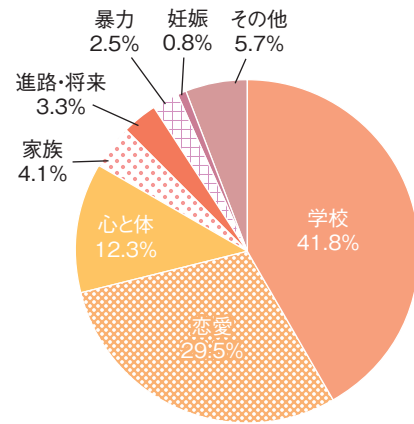


※少数第二位を四捨五入。

相談結果

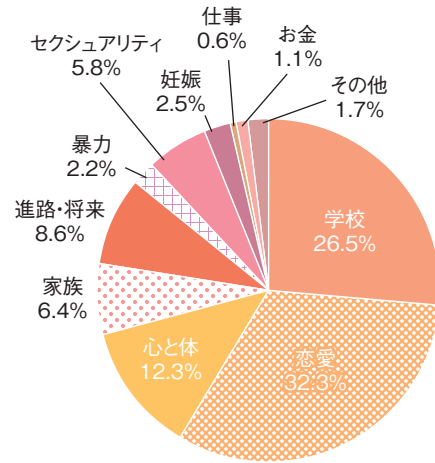
●相談内容

2016年度

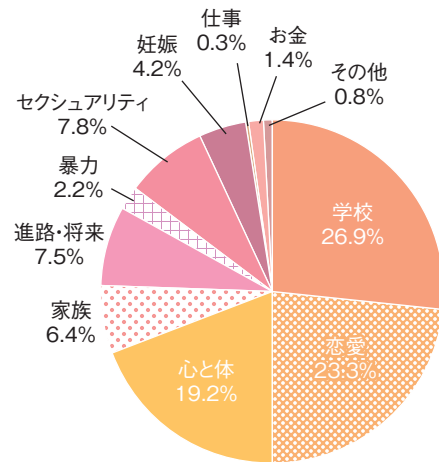


※2016年度は電話の相談内容も含む。
 ※2016年度のセクシュアリティに関する相談件数は「心と体」の項目に含む

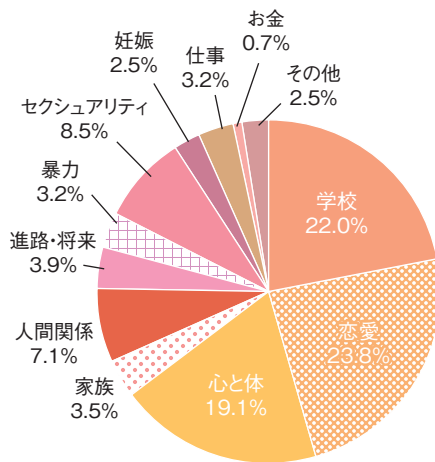
2017年度



2018年度



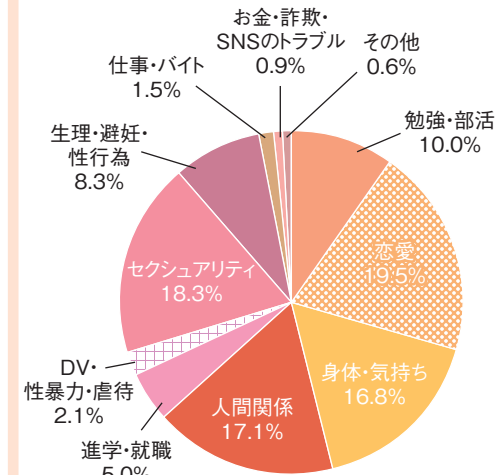
2019年度



※2019年度冬期から「家族」に代わり「人間関係」の項目を追加。

※少数第二位を四捨五入。

2020年度



※2020年度に内容項目を見直した。

●相談内容から見えるもの

「秋」「春」の開設が増え、年4回実施しました。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により休校の実施や外出自粛など、今までに経験のない生活環境となる1年でした。以前からガールズ相談では、開催日数が限られることにより支援が途切れてしまうことが課題でした。例年以上に変化する2020年度にあって、ガールズがより安心して相談できる機会を増やすため、2020年度は秋と春にもガールズ相談を開いたしました。秋の相談では7割程のガールズが夏から継続して相談に来てくれました。

セクシュアリティやジェンダーに関する相談が最も多くなりました。

2020年度夏期の相談ではセクシュアリティの相談が21.5%を占め、最も多い相談内容となりました。ガールズ相談に来た相談では、明確に「性別を変えたい」というよりは、「自分の性別がわからない」といったセクシュアリティのゆらぎの相談が目立ちました。またジェンダー観の押しつけに対する抵抗感や、家族や周囲の人との価値観の違いに悩む相談も寄せられました。ガールズ相談では、セクシュアリティに関する情報提供や自分の気持ちを優先していいと伝えることを大切にしています。

ネットでの人間関係に関する相談が増加

昨年に引き続き「人間関係」に関する相談が多く寄せられましたが、その中でもネット上の人間関係の相談が増加傾向にあります。ネットで知り合った人との恋愛に関する相談などもあれば、SNS上でのトラブルなど深刻なケースもあります。中にはネット上のつながりが中心で、リアルな友人とのつながりが希薄なガールズもみられます。今後ネットが社会に広がる中、トラブルを避けるための知識や安心して相談できる場所が求められていると感じています。

札幌ガールズ相談事情

ガールズ達の声

対象:2020年度ガールズ相談対応完了者304名(有効回答数187名)

集計方法:Webアンケート

「ガールズ相談」を利用した理由

LINEで相談
できるから

84%

- ・相談員が女性だから安心
.....44%
- ・相談にお金がかからないから
.....41%
- ・誰かと話したかったから
.....39%



ガールズからのメッセージ

- ・私を認めてもらえて嬉しかったです。自信ができました。
- ・気持ちにしっかり寄り添ってくれました。また相談したいです!
- ・親や友達に相談しにくいことを解決できました。ありがとうございます。
- ・丁寧に相談していただき、スッキリしました。
- ・女性なので相談しやすかったです。共感してくれて嬉しかったです。
- ・気軽に相談できるのがありがたいです。LINEで相談できる機会をもっと増やしてほしいです。
- ・気持ちが軽くなりました。悩みを抱えた時にすぐ相談できる味方がいると思えるように、ずっと相談ができるようにしてほしいです。

Cloudy ～相談の次の支援へ～



さまざまなSNS相談を行う中で、課題や悩みを解決できたり、前向きになれる相談者も多くいます。しかし、課題を解決するために必要な資源がなく、困難を抱えたままの状態です。SNS相談を入り口として、相談の次の支援としてサポートしていけるように、他機関・他団体と連携し、より力強い支援をしていくことの必要性を感じています。そこで、制度の狭間で「支援を受けられなかった」「必要な支援制度がまだない」という若年女性が安心して支援を受けられるために、若年女性支援ネットワーク「Cloudy」を立ち上げました。DV被害者や生活困窮者の支援などに取り組む札幌市内のNPO団体や関係機関と協力しながら、より深刻な悩みを持っていたり、社会資源につなげる必要がある若年女性を対象に、個別・継続支援をしていくための体制づくりを進めています。また、学習会などを開催して支援者のスキル向上を目指すとともに、ニーズを顕在化することで若年女性支援の必要性を周知していきます。

気持ちがモヤモヤと曇るときだって、雨が降るときだってある。そんな自分も大切な自分の一部だから、一人で抱え込まずに誰かに頼って欲しい。その気持ちが晴れるときは必ずくる。「Cloudy」にはそんな想いを込めました。今までつながらなかった人と出会い、今後について一緒に考えていきたいと思っています。

2020年12月から札幌市内の飲食店や当センターで、女性を対象に食料や生理用品などが入った「ほんのきもちギフト」を配布する取り組みを行っています。



2020年度 札幌市男女共同参画センターの取り組み

札幌市男女共同参画センターでは、10代・20代の若年層や支援者を対象にさまざまな事業を行っています。「ガールズ相談」で明らかになったガールズが抱える悩みを参考に、ワークショップなどの事業を企画・運営しています。2020年度に行った取り組みをご紹介します。

新型コロナウイルス感染拡大特設相談窓口「女性のためのLINE相談」 (2020年4月15日(水)～6月30日(火) 相談数:延べ321件)

非常事態による自粛生活で家族やパートナーと過ごす時間が増えたことで起こるDVや離婚についての相談が多く寄せられました。また、労働関係や経済的な不安とともに、自分自身と向き合う時間が増えたからこそ精神的に不安定になっていると悩む声もありました。

どこからでもアクセスできるSNS相談だからこそ、周囲に気を遣わず不安を吐き出したり、外出ができなくても誰かとつながっていることを再認識し、相談者が安心して話せる機会になったと思います。SNS相談では、直接会うことが難しい状況や、不安をどこにも打ち明けられない環境にいても気軽に相談を送ることができます。社会やライフスタイル、働き方などに大きな影響を与え、さまざまなことが変化している今だからこそ、SNS相談へのニーズの高さを改めて感じました。



SNS相談 はじめ方講座 ～ガールズ相談の現場から～ (2020年12月19日(土) 参加者:16人 13団体)

5年間ガールズ相談を続けてきて、全国の男女センターから問い合わせを受けることが増えてきました。当センターで行ってきたさまざまなSNS相談の経験をもとに、これからSNS相談を始めたいと考えている相談機関に向けて、運営方法や若年女性向けの相談対応についてのオンライン講座を行いました。

若年層の価値観や取り巻く環境の特徴について知ってもらい、ロールプレイで実際の相談の雰囲気を感じてもらうことで、SNSでのコミュニケーションの取り方や他の相談ツールとの違いを体験してもらいました。参加者からの質問も多く、「ロールプレイが実践的で今後役に立てることができそう」「SNS相談実施に対しての不安が小さくなった」といった感想が寄せられました。時代に合わせたSNS相談の担い手が全国に増えることで、ガールズがどこに住んでいても安心して気持ちを話せるようになる社会を目指していきます。

